伊方原発をとめる会ニュース 2018年3月1日 NO.25

〒 790-0003 松山市三番町 5-2-3 ハヤシビル3F 電話 089-948-9990 FAX 089-948-9991 ホームページ http://www.ikata-tomeru.jp _メール ikata-tomeru@nifty.com

地域での新しい芽吹きを力に

えひめ県民署名に全力で!

原発のない暮らしを求めるえひめ県 民署名が、各地域で取り組まれていま す。えひめ県民署名の会は、2月10 日に第5回運営会議を開催しました。

そこでは、「日本と再生」の上映会に取り組み、地域への署名行動を重ねている地域からの報告がありました。地域の世帯を訪問して署名を拡げています。

おおむね中学校の校区単位に、順 次相談会を開催している松山市の参加 者から、道後地域や小野地域での取り 組みが報告されました。伊予市からは、 何度も相談会を重ねた中で、署名集 めの「力持ち」に出合って励まされて いるとの報告もありました。



松山市駅前の署名活動 2018/2/15

署名期限を7月末まで延長

一方、映画会を終えて、ようやく行動が始まるという地域からは、3月末が切りは早すぎるとの意見も出ました。協議の結果、署名の期限を7月末まで延長することになりました。

芽吹きから成長へ、引き続き「呼びかけ人」を 増やしながら、署名行動の規模を急速に拡げましょ う。

もくじ

- 1P 県民署名に全力で
- 2P コツコツ・テクテク・ソロッテ
- 3P 高松高裁抗告審の報告 / 次回は参考人審尋へ
- 4P 広島高裁が3号機運転差止の命令
- 5P 「原発即時ゼロ法案」/ 米兵士の福島被爆訴訟
- 6P 連載インタビューその4:渡部敦子さん
- 7P 同上インタビューの後半
- 8P 早坂暁さんを偲んで / 12月議会請願の結果

伊方原発廃炉を求める 3・11 集会とデモ

2018年 3月 11日 (日) 13:30~16:10 コミセン にて

松山市総合コミュニティセンター 3F 大会議室

伊方原発をとめる弁護団・薦田伸夫さんが 裁判状況を報告します。講演では、福島県農 民連会長の根本敬さんが「7年目の福島」を リアルに伝えます。

【主催】伊方原発をとめる会

13:30 挨拶・事務局報告・弁護団報告

14:00 講演「7年目の福島」

(福島県農民連会長 根本敬さん)

15:15 コミセン正面入口前(東側)集合

15:30 ~ 16:10 デモ

コミセン→四電原子力本部(西側)(南側) →市駅南側→高島屋東側で流れ解散

粘り強い活動を!

安藤哲次 (えひめ県民署名の会事務局長)

映画「日本と再生」の上映会と署名集中アクションの、県内各地での取り組みが展開しています。

自分の地域で450筆集めた伊予市の男性とか300 筆以上集めた西条市の女性とかもいます。

県内で行われた「日本と再生」上映会

上映日	場所・回数など	入場者数
5/20 (日)	松山上映会(コムズ)2回	170人
7/21 (金)	新居浜上映会(市民会館)2回	150 人
9/16 (土)	東温市上映会(東温市中央公民館)2回	150人
9/18 (月)	宇和島市上映会(鶴島公民館、商店街アーケー	60名
	ド)2回	
10/22(日)	今治上映会(アイシネマ)2回	60名
		(台風)
11/12(日)	四国中央市上映会(四国中央市福祉会館大	100名
	ホール)2回	
11/25(土)	松前町上映会(松前町総合文化会館視聴覚	70名
	室)2回	
11/26(日)	伊予市上映会(さざなみ館)2回	55 名
1/14 (日)	西条市上映会(旧ひうち会館)2回	70 名
1/14 (日)	今治市追加上映会(台風で見残分)	18名
1/20 (土)	大洲市 2回 主催「原発を考える会」	90名
1/28 (日)	八幡浜市上映会1回	60 人
2/10 (土)	松山市(石井公民館)	29 人
野村、明浜、	城川、宇和、内子、久万高原などで試写会	150 人
		NF

これから一気に署名活動を拡大していきたいと思います。個人でもグループでもまず自分の地域で、一戸ずつ尋ね対話をしながら署名を集める。これを積み重ねていけば署名を集めることができます。 粘り強い活動をお願いします。



県民署名の会運営会議 2018/2/10

コツコツ、テクテク、ソロッテ

えひめ県民署名の会事務局 松尾京子

「私たちが/できること/あります」は、署名の 会のカラーパンフレットにある言葉です。

私は、伊方原発をとめる会の裁判の原告なのですが、裁判のことはよくわかりません。新聞も、夜9時以降の比較的マシなTVのニュースもほとんど見



伊予市でテクテク署名を続ける 松尾さんと向井さん

ません。ネット もSNSもやりま せん。原発関 連のニューさ は大抵し間から 聞きます。

そんな私に もできることが ありました。一 署名活動 です。今は署 名の会の事務 局に加わり、昨年5月から住人となった伊予市では、 「日本と再生」上映会で世話人をした仲間と共に、 呼びかけ人のみなさんに声をかけながら、コツコツ、 テクテク、ソロッテと銘打った署名活動をしています。

けれども署名期間は3月末迄。とても目標筆数 (8000筆)には達しない=どうならい? (伊予弁で「どうなるか?」の意)と思っていました。が、2 月10日の呼びかけ人代表の運営会議で他の地区からも、「署名活動は今漸く緒についたところなので延長を。」と声が上がり、延長を決めました。期間は7月の末迄。ヤッタ! 裁判は法廷の中でしかできません。が、法廷の外で「私たちが/できること/あります!」

さあ、季(とき) は春 梅の香や桜の花と 署名活動をご一緒に。

次回(6/5)は学者参考人の尋問

2月13日高松高裁で、伊方原発3号機の運転差止を求める仮処分事件の抗告審の第2回審尋(非公開)が行われました。その中で次回(6/5)は参考人(学者2名)の尋問を行い、次々回(7/18)で結審の見込みです。なお、すでに決められていた5月16日の審尋は取り消しとなりました。

住民側学者の次回尋問を決定

高松市はこの日、めずらしく小雪が舞っていました。審尋では、前回の審尋(11/16)以降に双方が提出した書面について確認。次いで、火山噴火にかかわる動画(NHKテレビ番組「巨大震災」の一部)を、住民側弁護団が口頭説明を加えつつ20分程度裁判官にも視聴してもらいました。

その後、今後の進行について協議し、次回の第3回審尋で2名の参考人尋問を行うことを決定。これは、住民側弁護団が申請していた学者証人の公開の法廷での証言に代わるもので、高知大学名誉教授の岡村真先生と大阪府立大学名誉教授の長

沢啓行先生を参考人 として招きます。



支援者による 新たなバルーンも

第4回(7/18)で結審の予定

第4回の審尋は7月18日とし、これにて審理は終結予定です(その後は裁判所の判断を待つだけ)。これは、広島高裁の運転禁止期限が9月末までで10月以降も運転差止継続のためには高松高裁で運転禁止の決定を早急に勝ち取ることが必要で、審理の早期終結を願う私たちの希望に沿うものです。

なお、前回の審尋以降に住民側弁護団は、四電の答弁書への反論や火山や地震に関わる補充の意見書など5件の書面をこの日までに提出しましたが、四電側は一応形式的な反論はしても本格的な



反論書面を全く出していません。こうした四電の対応は、自らの主張に科学的裏づけのないことを物語るものです。

報告集会に80名が参加

審尋に先立って裁判所前で入廷行進を行なって 愛媛・香川・徳島・広島などの支援者が抗告人と 弁護団を激励。この様子はTVニュースで報道され ました。また審尋の後にはマスコミ向けに記者会見 を行った後に、同じ会場で裁判報告集会を実施し 闘いへの決意を新たにしました。

高松高裁第2回審尋と報告会に参加して

第3次本訴原告 泉 京子

松山からの小型バスで高松高裁に着くと、正門前にはクジラ・バルーンが応援のお出迎え。一緒に抗告人と弁護団を裁判所に送り出した。「報告会」で、7月迄あと2回の審尋が設定された。論戦では完全勝利だったのに不当決定を出した松山地裁に幻滅をしたが、高松高裁での今後の展開には希望がもてそう。広島高裁決定の9月末以降も高松高裁で再・再稼働が差し止められることを願うばかりだ。

広島高裁 伊方3号機運転差止を決定

昨年12月13日、四国電力伊方原発3号機(愛媛県伊方町)の運転差し止めを求める仮処分の 抗告審で、広島高裁(野々上友之裁判長)は3月の広島地裁の決定を覆し、運転禁止の決定を下 しました。原発の運転差し止めを認めた司法判断は、高裁では初めてです。同機は定期点検中でし たが点検完了後の再稼働は不可能となり、現在も停止しています。なお、差し止め期間は、本年9 月末までとしています

火山噴火の危険性に着目

決定では、130キロ西の阿蘇山(熊本県)に着目し、過去最大規模の噴火では「火砕流が敷地に到達する可能性は十分小さいとは言えない」と述べ、火山灰について「四電による降下物の厚さや大気中濃度の想定は過小」とし、「新規制基準に適合するとした規制委の判断は不合理」と批判。「立



勝利報告をする河合弁護団長(広島高裁前)

地不適」としました。この「立地不適」との決定は、 あれこれの安全対策を施しても危険性は解消しない との判断を示すもので、併せて火山大国日本にあ る全原発の危険性に警鐘を鳴らしたと言えます。

低線量被曝の被害を直視

なお、余り大きく報道されていませんが、原発から100キロ離れた広島市民にも「生命・身体への 具体的危険がある」と認めた点も重要です。と言う のは、事故時の広島市民には100ミリシーベルトと いう低線量被曝が想定され、国などは低線量被曝 に健康被害はないとしています。ところが、広島高 裁は低線量被曝の危険を明確に認定しました。こ の点、野々上裁判長が広島地裁で原爆症認定集 団訴訟(原告全員勝訴)を担当したことと深い関 係があると推測されます。

高松でも大分でも山口でも

この決定に対して四国電力は 12 月 21 日異議を申し立てたため、同高裁で別の裁判官による異議審が行われます。なお、広島地裁では本裁判とし

ての運転差し止めを求める審理が進行中です。

また、伊方原発を巡る仮処分申し立ては、広島、松山、大分の3地裁と山口地裁徳山支部の4裁判所に出されていました。このうち広島地裁が3月に、松山地裁が7月にいずれも住民の訴えを斥けましたが、広島については今般の高裁決定で覆され、住民の訴えが認められました。また、松山については住民が即時抗告し、いま高松高裁で審理中であり、大分・山口では地裁段階の審理が続いています。

問題点も併存する決定

広島高裁の決定は運転停止を命じた点で非常 に画期的です。同時に、新規制基準や基準地震 動を妥当とするなどの大きい問題点も含んでいます。 また、停止期間を9月末としたことに根拠はありま せん。住民側弁護団は、高松高裁などにおいてこ れらの欠陥を是正した決定をと奮闘しています。



松山でも報告集会(2017/12/13)

勝てると信じて

絶対勝てる、と信じて昨年 12 月、広島高裁前へ出掛けました。(笑)

いやいや実際は、もし昨年3月末の広島地裁に続けての却下を喰らっていたらPTSDになりそうでしたから、それを免れての勝訴にホッと安堵していました。

広島高裁抗告審の抗告人 小倉正

勢いを増す原発ゼロの流れ

2018年1月11日 朝刊

原自連が「原発ゼロ即時法案」

1月10日、「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟(原自連)」が「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」の骨子を発表しました。

その要点は、●全原発を即時停止。新増設は認めない。●使用済み核燃料の中間貯蔵と最終処分抜本的計画を国の責任で策定。●核燃サイクル事業から撤退、●原発輸出を中止、●再生可能エネルギーの発電割合を2030年までに50%、2050年までに100%とするーなどです。この日、原自連は記者会見ののち各党を訪問し法案提出に向けて懇談を行いました。

原自連は2017年4月に発足。会長に吉原毅(城南信用金庫相談役)、顧問に小泉純一郎(元内閣総理大臣)、細川護熙(元内閣総理大臣)、幹事長・事務局長に河合弘之(脱原発弁護団全国連絡会共同代表)、事務局次長に木村結(東電株主代表訴訟事務局長)等々で構成しています。

法案提出に向けては

立憲民主党は、1月2日に脱原発法案の骨子を発表しました。その後、1月10日の原自連との懇談を経て、1月23日には「立憲民主党エネルギー



記者会見に臨む小泉元首相(右手前)ら。一番奥は細川 元首相=東京・永田町の衆院第1議員会館で(小平哲章 撮影)

東京新聞 Web 版(2018/1/11) より

調査会・原子力市民委員会 対話集会」が開催されました。この場で、原子力市民委員会から、立憲民主党「通称:原発ゼロ基本法案(骨子案)」について意見(8項目ほか)が示されています。

立憲民主党は、原発ゼロ基本法案前文と原発ゼロ基本法案骨子案をホームページで公開して意見を求め、2月16日(金)にその受付を完了してとしています。原発ゼロ法案をめぐって、野党第一党がどのような対応をとるのか。注目されるところです。

福島沖およそ 240 キロで深刻な被ばく 元米軍兵士らが東電を訴え



右上:東電に損害賠償を求める原告団長リンゼイ・クーパーさん。左下:兵士を守ろうと自らも裁判を決意したロリー・コーディ少佐

昨年10月の南海放送で、NNNドキュメント「放射能とトモダチ作戦」が放映されました。福島原発から北東240キロのあたりで、米国の艦船が「突然巨大な熱い空気のかたまり」に遭遇したのは、福島原発1号機の爆発の翌日、3号機のベントのあとでした。兵士たちの症状は、広島・長崎の被ばく者の症状と酷似していました。放送時点で9名が亡くなっており、約160人が東京電力を訴えました。

瀬戸内海の真ん中で事故が起こったら

福島原発事故では、大気中に出た放射性物質の8割が海の方向に流れたとされています。伊方の場合は、どの方向にも人が住んでいます。福島沖で被ばくした艦船の距離をもとに、伊方から円を描けば、中四国近畿そして九州の都市部も含めて、深刻な被ばくにさらされます。確実にいのちを守るためには、原発を動かさないで廃炉に向かわせる他ないのです。

連載インタビュー その4

アフリカヹ、出想。た王ルノブツ事故。衝撃



渡部 敦子 (わたなべ あつこ) さん

コープ自然派しこく理事/エステティックサロン経営

脱原発運動にかかわる方々を毎号紹介するこのコーナー、今回登場願った 方は「コープ自然派しこく」理事の渡部敦子さんです。渡部さんの半生とそ の思いをご紹介します。

14歳で被爆した父

問い: お父さん(藤村敏夫氏)は、14歳のとき 国鉄広島駅の機関庫で被爆されていますね。渡 部さんは被爆二世になる訳ですが、いつころそ れを意識されましたか?

渡部: 父が被爆したことは、子どものころから知っていました。でも詳しく話を聞いたのは、ほんの10年ほど前です。父の居住地の「湯ノ山9条の会」が被爆体験を聞く会を開催し、当時高校生の娘や娘の友人と一緒に初めて聞きました。

問い: その時、どう思われましたか?

渡部: 原爆というものの恐ろしさ残酷さを思い知らされました。同時に、60年も前のことなのに、 父が細かいことまでハッキリ覚えていることに驚きました。それほど強烈な体験だったのだと感じました。

問い: その後は被爆体験を語る場を渡部さんが 次々に設けて、お父さんの背中を押し体験を話 してもらうことになった訳ですね。

渡部: 「コープ自然派しこく」をはじめ、友人知人のネットワークを使いました。北海道の知人にも招いてもらい、道内3箇所で開催しました。体験者の生の話はやはり強烈な衝撃を与えたようです。ある高校では「うちの生徒たちは集中力がないから」と先生は心配されていましたが、話し始めると生徒たちの表情が変わりました。話し終わると拍手が鳴り止まないほどでした。

問い: そのお父さんは、いま86歳ですねぇ。

渡部: ええ。今は生の体験者である父が語ってくれていますが、やがては二世の私が代わって原爆の悲惨を語り伝える責務があると思っています。被爆二世としての発信力を活用すべきだと考えています。

青年海外協力隊に

問い: 原発問題への関心は、お父さんの被爆体 験とのかかわりからでしょうか?

渡部: いいえ。チェルノブイリの事故が、原発との最初の衝撃的な出遭いでした。その頃、私は青年海外協力隊(看護職)でアフリカのザンビアにいました。事故が伝えられると、キエフ出身の医師(ソ連から派遣)が真っ青になって急いで帰国され、ザンビア国内でも事故による放射性物質の拡散・降下の影響が深刻に心配されていました。その時初めて原発の危険性に気づかされました。

問い: アフリカに居られたのですか?どんな事情で、何時から、どこにいたのですか?

渡部: 母の強い勧めで20歳で正看護士資格を得て、県立中央病院で働き始めました。でも、まもなく医療現場の現実と理想のギャップにぶち当たり悩んでいました。またプライベートでは、私は双子の姉なのですが、何事にも積極的な妹と違って引っ込み思案の性格を変えたい、一人でも生きる力を身につけたいと願っていたため、思い切って県病院を退職し、青年海外協力隊に応募しました。22歳のときでした。



問い: ご両親は、驚いたでしょうねえ。 反対されなかったのですか?

渡部:「絶対に行く」と決意していたので、どうせ心配させるなら少しでもその期間は短

ザンビア赴任中の渡部さん 1987/2/9

い方がいいと思って、出発直前まで告げませんでした。両親に打ち明けると、「生きて帰って来られるのか?」と、心配していました。結局は半分喧嘩別れ状態で上京し、3ヶ月の訓練を経た後にザンビアへ向かいました。その両親は今では、「行かせて良かった」と言ってくれています。

問い: ザンビアという国は、どういう国ですか?使用している言語は?

渡部: ザンビアの公用語は英語ですが、日常生活では72あると言われている部族語が飛び交っています。私の住んでいた集落には日本人は一人もいなかったので、みなさん気を使ってくれて片言交じりの英語で暮らしていました。

経済的には遅れた国で泥棒も多いようでしたが、 人々はとても親切です。大きな荷物で困っていると、見ず知らずの人がお節介をやいてくれます。 知らない土地で道を聞くと、目的地までたどりつけるかと後ろからずっとついて来て案内してくれる、 そんな国民性です。そして貧しいけれど、子どもたちは瞳を輝かせて自分の夢を語ります。毎日が楽しくて、赴任中は日本に帰りたいと思ったことはありませんでした。

意しの場」つべりへ

問い: ザンビアには、どれくらい居たのですか? また帰国後は、どうされましたか?

渡部: 任期は2年間でした。イギリス経由で成田に着いた途端、ザンビアとの余りの大きい違いに驚きました。行き交う人々の目がどんより曇っていて、まるで死人の目のように見えました。これが、過労とストレスで病んだ日本の姿なのだと痛感しました。帰国後は、松山市内の両親の家に戻りました。

問い: 帰国後は看護職に戻らずエステに進み、 今はエステティックサロンの店主をされているので すね?

渡部: はい。エステティックは全身美容と言われますが、それを基礎にした「心身の癒(いや)し」だと私は考えています。帰国した私は日本の社会では癒しが必要とされていると感じ、看護職の経験や知識も活かせるエステの道を選びました。

問い: 失礼ですが、エステと言うと一面いかがわ しいようなマイナスイメージもありますが?

渡部: エステティックで実際に勤務し始めると、超高額などの現実と理想のギャップに直面しました。その後出店する時には、自分の理念にふさわしい店づくりを心がけました。今は市内で「ファールカ(アラビア語でヨット)」という店を出しています。以前出していた店と違って従業員も

置かず看板も出さず(紹介客限定の完全予約制で)、一人でやっています。施術は長時間ですから、半分は悩み事相談所です。それが自立した人間づくりに役立てば、社会貢献につながるのではと思っています。

脱原発に向けて

問い: ところで、「コープ自然派しこく」の理事を されていると聞いていますが・・・。

渡部: ザンビアから帰国した私は、地球環境問題に強い関心を抱くようになっていました。そんな時に知人に誘われて組合員になりました。「コープ自然派しこく」には愛媛県内に5000人ほどの組合員がいますが、私はグリーンアースというチーム名で環境問題に長年取り組んできました。そうこうしている内に退任される理事さんから声をかけられて、理事になりました。今年度の理事としての私は内部被曝問題の担当です。

問い: 最後に、原発問題で訴えたいことやいま 取り組んでいる原発のない暮らしを求める署名活 動への思いなどを聞かせてくださいませんか?

渡部: 唯一の被爆国日本は、脱原発はもちろん 核廃絶そして世界平和に重要な役割を負っている特別な国だと、私は思います。そうした役割を 果たすためにも、県民多数の意思を署名という 形で表すことはとても重要です。いろんな事情から、私個人としても「コープ自然派しこく」としても、 申し訳ないのですがまだ充分ではありません。し



伊方ゲート前で父上と

インタビューを終えて

「フーテンの寅」のファンである私は、インタビューをしながら渥美清を連想していた。渥美の主演映画に「ブワナ・トシの歌(1965年公開)」があり、ロケ地であるアフリカの大自然と人々に渥美は強い憧れを持ったという。わが国の様相とは全くの異世界に、私も足を踏み入れたいとの思いに駆られた。被爆者である私は、お父上とはかねてからの知り合いだが、渡部さんとは初めての出会いであった。[松浦記]

早坂暁先生を偲んで

とめる会事務局 松浦 秀人



松山市(旧北条市) 出身で「花へんろ」「ダ ウンタウン・ヒーロー ズ」などで著名な脚 本家・作家・エッセ イストの早坂暁(はや さか・あきら) 先生が、 昨年12月16日に亡

くなられた。88歳没。

早坂暁というお名前を意識したのは、テレビドラマ「夢千代日記」によってである。山陰の温泉地の芸者であり胎内被爆者である夢千代をめぐるこの連続ドラマ(5回)では、当時35歳の吉永小百合が同じ年齢の夢千代をはかなげに演じた。

ドラマは視聴者の高い評価を受け、後に続(5回)、新(10回)と制作されて三部作となり、映画化や舞台化もされた。先生の代表作の一つである。

被爆者の苦しみや悩みという重たいテーマを、誰もが楽しめる娯楽作品の形で広く訴えかけた先生の技(わざ)に、胎内被爆者である私は舌を巻いた。その先生に初めてお目にかかったのは、2013年6月4日である。友人の林一幸氏(愛媛音楽センター社長)の紹介で、伊方原発運転差し止め訴訟の原告になって頂きたいとお願いに伺った。

緊張しながら切り出した私に、あっけないほど簡単に先生はご快諾くださった。「お立場からのご面倒はないのか」と、こちらが心配したほどだった。逆に、「被爆者の貴方が反原発運動をすることは、とても意味のあることです」と激励して下さった。柔和な物言いながら悲惨な事態を招く原発への怒りがあり、「夢千代日記」などに見られる反核平和への想いと通底する先生の生き方そのものが見えたように感じた。

同年9月には、「とめる会」定期総会の記念講演も気軽にお引き受けくださった。その後も2回ほどお目にかかる機会を得たが、偉ぶることなくいつも気さくに遇してくださる方であった。いまは、心からご冥福をお祈りしている。

12月議会での請願結果

伊方原発をとめる会は、2017年12月地方議会において、愛媛県内20市町議会と県議会の21議会のうち、4議会に請願を提出しました。請願は、2号機廃炉に特化したものと、2,3号機とも廃炉を求めるものと2種類としました。このうち東温市議会への請願は、地元51名の方々が主体的に請願して下さいました。

請願結果は以下の通り。

○東温市議会=2号機廃炉。地元請願人51名。(紹

当面の予定

- 3/11(日) 13:30~ 「伊方原発廃炉を求める集会とデモ」
- 3/17(土) 13:30~県民署名の会第6回運営会議(コムズ)
- ・ 3月後半 とめる会拡大幹事会
- ・ 4月後半 とめる会拡大幹事会
- ・5/27(日)13:30~伊方原発をとめる会第8回総会 (コムズ5F)記念講演 飯田哲也氏
- 6/5(火)11:00~高松抗告審の第3回審尋
- 7/18(水) 15:00~高松抗告審の第4回審尋

介議員:森眞一)→不採択

- ○松山市議会=2・3号機廃炉。草薙順一(紹介 =梶原時義、杉村千栄、中村嘉孝)→不採択
- ○愛媛県議会=2・3号機廃炉。草薙順一(紹介=村上要、田中克彦、武井多佳子)→不採択
- ○大洲市議会=2号機廃炉。草薙順一(紹介= 宇都宮宗康、二宮淳、梅木加津子)→継続
- (注:議会内役割の関係で、県議会の逢坂節子、 石川稔、松山市議会の小崎愛子の各氏は紹介 議員となれませんでした。)

編集後記

松山市内でも各地域で署名活動が行われているが、まだこれからのところもある。私の住む素鵞(そが)校区でも、寒波の中、7人の地域住民が集まった。同じ地域に住むとはいえ、ほとんど知らない人ばかりだ。集まってみると、医療生協の組合員あり、みんなで野菜作りをしている人、年齢も30代から年配の方まで。いろいろな人がいるのだなあと思った。署名の会の事務局長の安藤さんや大川さんも来てくれた。しかし、戸別訪問するといっても、この署名活動そのものが知られていない。

まずは3月18日に、学習会を開くことになった。 どうなることやらわからないが、地域で話し合いながら、無理なくやっていければいいと思っている。そんなことを考えながらの編集作業だった。(M)